～～第８６８４回～～
神津島・天上山
～Ｒ１．５．１８－２０～
　＜18 日＞天気は、曇り。4:15 に静岡駅北口を出発。途中、今回の参加者を拾いながら東名清水 IC へ入る。新東名、伊豆縦貫道を走り、7:00、下田港の神新汽船下田営業所に到着。早速、所長に「船が出るのか出ないのか」を確認する。所長は、「今日は出るが、20 日の帰りは、どうなるかわからない」とのこと。行きはよいよい帰りは怖いか。まあ何とかなるだろうということで、船の出を待つ。9:30、出航。船は「フェリーあぜりあ」495 トン、60 メートルの大きな船。下田港の外へ出る。波は静か、わずかに揺れながら進む。利島・新島・式根島の島影がうっすらと見える。11:50、無事に神津島港に到着。構内にある神津島村(人口 1,500 人)の「まっちゃーれセンター」(待合場所)の中にある神津島観光協会に立ち寄り、男性陣 5 名が宿泊テントを張る沢尻野営場の許可書をもらう。女性陣 12 名は港から少し坂を上った民宿丈栄丸へ、男性陣は歩いて 20 分ほどの野営場へ向かう。このキャンプ地は、小さな砂浜の入り江に面した静かな場所。背後には、十数年前に建てられたという今は廃屋となっている大きなリゾートホテルが寂しげにたたずんでいる。テントを張り終えて、歩いて少し先にある神津島温泉保養センターへ。女性陣は、路線バスで到着。ここから、海岸線の遊歩道を歩く。観光客を迎えるため、遊歩道は良く整備されており、トイレも数多く設置されている。赤崎遊歩道と表示された海岸の岩の上に設置された木道を進む。長さ 500 メートル、吊り橋・展望台、夏には海水浴・シュノーケリングを楽しむ人たちで賑わうようだ。散歩を終えて、温泉保養センターの露天風呂へ入る。岩の上の風呂からは、眼前に太平洋が広がる。泉質は茶色で舐めてみると塩辛い。風呂から出て女性陣は、バスで民宿へ。テント組の男性陣は、歩いてテントへ向かうが、そのうちの健脚の 2 人が歩いて港の方まで今夜の食事の材料の買い出しに行ってくれることになった。1 時間ほどして戻ってきた。早速、テントの前のシートに御馳走を並べる。ビールで乾杯。「ほうさん」という魚の半身を、料理に秀でたメンバーのひとりが切り身にする。新鮮で柔らかく大変おいしい。むろあじの「くさや」を焼く。たちまち、ものすごい臭いニオイ。噂には聞いていたが、聞きしに勝る。でも食べてみると普通のアジの干物よりは固いが、うまみが凝縮されていて、噛むとなかなか味わい深い。食事を終えて、早めに就寝。我々のテントの隣には、国学院大学のワンダーフォーゲル部の連中が 10 人ほど静かに野営していた。夜中に、パラパラとテントを打つ雨の音。明日は、天気が悪くて山へは登れないかもしれない。そのうち、蚊のブーンという音が気になって眠れない。
　＜19 日＞朝、4:30 ごろに起きる。テントの上を見るとなんと蚊が数十匹天井にへばりついている。外へ出る。雨が降った割には、砂地なのでサラッと乾いている。今日は、曇り空かな。何とか山へ登れるか。ホーホケキョと鶯が鳴いている。6:00 に朝食。7:00 に出発、30 分歩いて女性陣との待ち合わせ場所へ。一同元気に舗装道を歩いて登山口

へ向かう。案内パンフレットによれば、神津島とは、元々は、神々の集いし島、神集島(こうずしま)だったそうだが、それが転じて神津島(こうづしま)となったそうだ。島の最高部は、天上山(574m)で、黒潮に浮かぶ展望台として、天気が良ければ、伊豆諸島・伊豆半島・富士山を眺めることができる。山頂は富士箱根伊豆国立公園の特別保護地区に指定され、天然の池・白砂の砂漠・大島ツツジの群生など変化に富む景観が広がるとのこと。トイレを済ませ、8:00 登山開始。階段状の登山道は、よく整備されている。シダの緑の中に、所々、ツツジの赤が綺麗。小さいシャクナゲのような木に白い可愛い花が咲いている。シャリンバイという花だそうだ。登山道脇に 10 センチぐらいの茎の先に小さい紫色の花を付けたイワチドリを花に詳しいメンバーのひとりが見つけて歓声を上げる。数人が寄り添ってカメラを向ける。私のような興味を持たな人間からすれば、半ば感心する。山登りにもいろいろな楽しみ方があるということだ。周りが海とあって風が強い。黒松もハイマツのように低くなっている。開けた高台に出る。「文政の石積み跡」と呼ばれる数十個の石を積み上げた小さな見晴らし台のような場所。幕末、異国船が現れた時の備えとして、鉄砲数丁と槍一筋が備えられたと案内板に記されていた。何んとも労しい、こんな備えで何ができるのだろう。黒島展望山と呼ばれる眺望の良い地点に至る。風が強い。佐渡の金北山もそうだったが、海の中に聳え立つ山は海からの風が直接当たる。植物は高く伸びない。地を這っている。暫くして、広々とした台形上の頂上部に出る。裏砂漠と呼ばれる流紋岩が風化してできた白い砂で覆われた砂漠景観。オオシマツツジが風に飛ばされた砂に幹の部分がほとんど埋まり、砂の中から緑の葉と赤い花が顔を出している。空の青・白い砂・赤いツツジのコントラストが美しい。ベンチが備えられた裏砂漠展望地、三宅島、御蔵島の島影が海の向こうに浮かぶ。眼前には、式根島・新島がはっきりと見える。少し歩いて新東京百景展望地、ここからは、はるか彼方にうっすらと大島・利島が望める。ヒメハギという名の紫色の小さな花を見つけて見入る。暫くして、不動池、小さな池で水は枯れていた。真ん中に祠がある。天上山は、838 年の大噴火による造山活動によりできた山で、霊山として現在も島民の信仰を集めている。ここで昼食。トイレは、足踏式おがくずバイオトイレで便槽のおがくずを自転車ペダルで回すようになっている。天上山の頂上部分は、国立公園の中でも最も規制の厳しい「特別保護地区」となっており、環境省も地元の自治体もその保護には最大限の努力を注いでいるのだろう。昼食の後、天空の丘と呼ばれる展望地を過ぎ、大正 15 年に起きた土石流災害の治山工事跡を望みながら、山頂へ。ここから神津島港の方へ向かって、大崩壊地が広がっている。山頂を下って、表砂漠へ。岩間に咲くツツジが美しい。トケンランと呼ばれる小さいランの仲間に見入るメンバーもいる。下って千代池に出る。火口に水がたまったもの。この辺りは、もう少し後になるとサクユリというきれいなユリがたくさん咲くそうだ。1 時間半ほど歩いて、女性陣の宿泊先、民宿「丈栄丸」に着いた。今夜は合同で、ここで夕食。キンメダイの刺身・煮つけは最高だった。

コースタイム：黒島登山口 800…黒島展望山 1010…裏砂漠展望地 1020…新東京百景展

望地 1045…不動池 1100 - 30…天上山 1250…表砂漠 1310…千代池 1350…黒島登山口 1500…民宿「丈栄丸」1530

＜20 日＞曇り。まっちゃーれセンターを 8:00 に出発、秩父山(280m)へ向かう。暫くして、雨が降ってきたので、私を含めて一部の人は、あきらめて引き返した。有志の健脚組が頂上を目指す。雨人が帰ったので、天気はよくなった。都道長浜多幸線の峠が登山口で標識もある。鬱蒼としているが、登山道ははっきりしている。急登で汗をかくが、展望台を過ぎると立派な観音堂がある。この先が山頂で、3 等三角点「秩父」280.4mがある。電波塔もあるが、木が伸びていて、東海岸はよく見えない。同じ道を戻る。海岸通りの道路わきに、「ジュリア祭」と書いた幟がたくさんひらめいていた。豊臣秀吉の朝鮮出兵の際、キリシタン大名の小西幸長が朝鮮から 3 歳の女の子を連れ帰り、その幼女は洗礼を受け、「おたあジュリア」と呼ばれたそうだ。関ヶ原の戦いで西軍の行長は敗れた後、おたあを家康が引き取り、駿府城の奥女中になったという。だが、幕府のキリスト教禁教令が厳しくなり、家康は棄教を迫ったが、おたあは拒否。網代から神津島へ流されたという。今回第 50 回を迎えるジュリア祭には、東京からの巡礼団と東京韓国学校の交流団が島を訪れるという。静岡から来た我々にとっても親近感を憶える島である。海も穏やかで、無事に 12:00 過ぎ神津島を出港、式根島・新島・利島へ寄りながら 16:00 過ぎに下田港へ到着した。迎えのマイクロバスに乗り静岡への帰路に就く。

コースタイム：まっちゃーれセンター800…登山口 900…秩父山 930…登山口 950…まっちゃーれセンター1040

参加者：17 名（静岡東 15、静岡南 2）

地図：神津島

記録：静岡東支部　Ｆ・Ｍ

天上山頂上から表砂漠へ下る